「第 2 期南丹市人口ビジョン」（案）
「第 2 期南丹市地域創生戦略」（中間案）に対するご意見（1/4）

必須項目	住所または所在地	八木町
	氏名または団体名 （団体の場合は担当者	
	連絡先(電話番号)	

＜ご意見＞
提案させていただきます

基本理念は、観光産業重視に代表されるような行きたい街作りではなく、住みたい街作りを目指すです
人口減少を止めることは今の日本においては基本的に無理ですが、地域としては可能と思います
出産世代の女性を呼び込むことを考える、子育て世代が住みたい街とはどういう街か
子育て環境の充実が最も大切です
就学時以前は、長時間保育、一時保育の充実、そのため効率的な保育環境の整備のため保幼一元化を進めること
小学校からは学校教育の充実です　少子化の中で教育の充実のため、小学校中学校を一体化し、塾に行かなくてもいいくらいの教育レベルの高い教育体制を組むこと　人を育てる環境作りをもっと重要視して欲しいです
八木、美山、日吉については、保育所、幼稚園から小学校中学校まで一体化し、各一つで運営する。スクールバスを学生と地域住民の足として運営する
教育レベルの向上は京都市内の御所南小学校、御池中学校の校区が人気となり地価も上がる、昔葵小学校の校区が同じようであったらしいが、
南丹市から京大に行くくらいの教育レベルの高い学校になっていけば、自然環境も良く、都会から移り住む人は増えてくるはずです。
たとえ、仕事があったとしても、家族が住む環境としては、先ずは学校がどのような学校であるかが考えるところです。
学校の充実無しには、子育て世代の移住は無いと思って欲しいと思います
次ぎに社会保障関係です。安心して地域で住み続けるためには医療、介護の充実は大切です
社会保障費の増大を防ぐため、医療の質をガイドラインに基づいて管理し、無駄な医療費を査定し、予防に力を入れていかないと、高齢化率の上昇と共に社会保障費の増大が市の財政を益々圧迫することになるでしょう。
次ぎに災害対策　安心安全な街作りは医療、介護とともに、災害対策も大切です
地球温暖化は 100 年確率の災害が頻繁に起こるようになると言われています。

化石燃料に依存した生活からの脱却もしていなければならないところです
太陽光発電、蓄電の普及は災害に強い街作りのためにとても大切で有効と思います
　国や府の補助が多ければ、この地域に住みたいと思う人も増え、災害時に安心して暮らせる街となるのではないでしょうか
　仕事は南丹市の自然を生かした産業を考える、決して自然を壊すようなことはしない
　たとえば、モクモクファームや牧歌の里といった地域の農業、牧畜業、林業を活用した会社をつくり、地域作りを考えて欲しいです
　外に出るとこの地域にしかないすばらしいものに気づかされます。●●市のように中途半端なものつくりをして借金を住民に背負わせるようなまねはして欲しくないです
　百年先にも残っているような、活用できるようなものつくり、人作りを考えて地方創世を進めていただきたいと思います
　最後に空き家対策について　八木の町中でも空き家が目立ってきています。田舎はある特定の家主さんが持っている借家が多く、それだけに空き家が放置されていることもあります
　市街地において空き家は街が寂れるだけでなく、治安上も悪くなります
　人が住み、街が活気づくためにも、コンパクトシティを作っていくためにも、市街地においての空き家が無くなるような施策（課税強化など）をお願いしたいと思います
　人口減少は大きくなった街が小さくなるということでもあります。小さくなるときにいろいろな痛みも伴いますが、避けられないじじうに目を背け後回しにして痛みを次の世代に押しつけるのではなく、痛みに真っ向から向き合って住んでみたい街作りを推し進めて欲しいと思います

「第２期南丹市人口ビジョン」（案）
「第２期南丹市地域創生戦略」（中間案）に対するご意見（2/4）

必須項目	住所または所在地	美山町
	氏名または団体名 （団体の場合は担当者	
	連絡先(電話番号)	

＜ご意見＞

・人口ビジョンについて

すう勢人口シミュレーションにおいて目標はケース２であるが、地方創生戦略とどう連関しているのか、また人口の地域差や密度を具体的にどのように想定したものかが指し示さていない。限られた資源投下を戦略上どのようするのかを具体的に示されることが最重であるが記載がない。その結果、理想はわかるが現実の即したシミュレーションとは言い難い。現状人口問題研究所が推計を前提した戦略立案がまず大切であると考える。

・地位創生戦略ついて

１）　KGI と KPI と各事業・取り組みが連動していない。

２）　各事業取り組みで具体的な事業名が記載されているものとそうでないものがある。地方創生戦略は地方創生交付金等の予算とも連動していると考えられるが具体的な事業は、南丹市として重要であり継続的に５年間は予算執行されるもと考えてよいのか。

３）　観光に関する項目

いくつもの箇所での関連項目の記載があるが、基本目標２の「ファン獲得に向けた…」が主要項目である前提に以下記載した。

a.　「海外をターゲットに…(中略)…誘客や定住促進などに取り組みます。」とあるが、訪日外国人の獲得（＝誘客）はもちろん、海外企業誘致や外国人労働者の獲得（＝定住促進）も含むとの理解で良いか。であれば、基本目標１にも記載し連関させる必要である。

b.　「オリンピックを機会に海外へ」とあるが、すでに出遅れている状況の中では、５年後を見据えて大阪万博など別の機会を定めたシティプロモーション戦略的に行うべきである。

c.　KPI と主要事業は一体的に一元的な運用が前提である必要がある。現行地域振興と観光の領域となっているが集約されるのか。また、DMO もしくはそれに準ずる機能を持つ組織が本項目の実施主体であると考えているがそれはどうか。

d.　観光協会への運営補助とあり、観光協会に対する理解はあるようだが、DMO の位置づけへの記載がなく不明瞭である。

d.基本目標４（３）の KPI はこちらの項目であり（基本目標４の項目には不適切であると考えられるが)、取り組みの一部もこちらで記載されるべきであると考えます。

４）　その他

最後に本ビジョンおよび戦略は総合計画の下位であるため、総合計画にそくした立て付けになったものだと考える。とすればやはり、実態の人口推移との乖離が大きい総合計画自体の見直しも必要ではないか。（何を前提にするかであれるが実現性が低いと思われる。これは、これまで様々な政策を実施した結果が人口研究所の推移どおりになっている点からも証明されている。この事実を踏まえ人口減少を踏まえて地域住民一人ひとりが自分ごととして地域を描くのか、また集落や地区ごとが自ら選択し、実行していく（＝自治）を地方自治体から地域や個人へ返していく地方自治の撤退戦略が必要である。各地域が減少を受け入れるのかといった選択を住民に委ね、地域自治そのものを住民のものとする。その選択を伴走しするのがこれからの地方公共団体の有り様だと考える。そのためには中央集権的ではなく、各地域の支所等を中心とした統治機構のあり方を再構築し、その中で、地域や住民が自治を取り戻し、人口問題等の課題に対して住民自身が自ら判断で方向（例えば人口減少を受け入れた地域づくりや、地域権限や予算を委任する度合いを増やすことで地域の自立を図る地域づくりなど）を指し示すことができる総合計画へと見直しされることを願う。

「第２期南丹市人口ビジョン」（案）
「第２期南丹市地域創生戦略」（中間案）に対するご意見（3/4）

必須項目	住所または所在地	日吉町
	氏名または団体名 （団体の場合は担当者	
	連絡先(電話番号)	

＜ご意見＞

南丹市は、あくまでも田舎である。

似ている景観で田舎と言う村や町は、全国に１万箇所程もある現実を、マクロ的に観ると金太郎飴現象が起きている。

でも、ミクロ的に観ると、めずらしく面白い話題性のあるものもあるので、田舎の個性を**特化**する必要がある。

つまり、**「虫の目」**で地域の資源を細かく観察すると、必ず再発見できるものが１つや２つは有るものである。

まさに、その熱意さえない地域は、動かずして何もないと思い込んでいるのであり、ワークショップも少なく刹那思考と利己的な損得と好き嫌い思考が強く希望がないのである。

意識が他力本願となり、愛郷心や感謝する心が希薄なため危機感が低く、活性化しない原因は、行政や地域の年寄りが悪い等、他人のせいにしている人が多いのに驚く、尻に火が付いているのに慌てないのは何故だろう。

そう言う人達は、ウェルカムなど意識さえしてないのか？

・全国的にも、話題を呼んでいる市町村は、夢・ビジョン・目標が明確で、何々の町と言う「シンボルワールド」が分かりやすく掲げられ、パブリックイメージ（統一感）が出来ている。

つまり、ワークショップを重ねて地域をデザインし、地域の個性やアイデンティティー（らしさ）を磨き、「人」を中心に**「誇りと絆と言う愛郷心」**を発信しているのである。

一言でいうと、**「仲良し村」**と言う魅力が構築している。

★今こそ！「天の時・地の利・人の和」

そういう観点から、南丹市を観ると非常に恵まれている所であると思う。

「鳥の目」で観ると自然と歴史・伝統文化に恵まれ、大都市京都の隣であり、約１～２時間で行き来が出来る通勤生活圏の立地条件にある。

さらに、ビジネス的に観ると、１５０万人の滞在顧客が隣に居ると言う利点である。

又さらに、都会の相対として、こちらは立派な田舎である。つまり、自然と共生しているライフスタイルが人間の心理からすると、無いものに関心が涌き自然の中で人間を生かしている、**「本来の面目」**と言う大いなる愛と癒しの魅力がある。

又、今は本物志向の時流にあり、回帰思考も高まっている。

★Ｕターンや孫ターン・Ｉターン移住希望者は増加している。

それらの人々を動かすには、行政のハードランデングと地域の人々による、「**ヒュー**

マンコミュニケイションでの、温もりのあるソフトランデングの共演の魅力作りが必要である。」

移住者の心を動かすのは、豊かな人情味か、逆に人里離れた地で自由感のある一軒家であり又、ランドスケープ（景観）の感動と、病院と学校とスーパーマーケットやコンビニの安心と便利を求める適当な近さにもある。

★今やニーズよりウォンツ！「要望より願望に応える時代」

ニーズに応えるには、お金と時間が掛かるが、ウォンツに応えるのは、人の心に満足や感動を与えることである。

田舎ならではの、観光や農業体験等肌身で感じて味わって貰うことである。

つまり、本物に触れたり味わったりで、感動と地域住民と触れ合え共感して貰えれば、願望に応えた事になるのである。とにかく、**五感を通して感性で感動して貰えれば心は動く。**

★体験学習の時代であるから、観光とセットにして発信！

観光とは、**「国の光」**との意味があるので、誇れる所や自慢の出来る所を、地域のみんなで磨き込むことで**「パブリックイメージ」**が出来て、**「情」**が深まり仲良くなり**「ワンチーム〇〇村」**が出来るのであると確信する。

観光の振興となる**観光ルート作りが大切である。**

・結局、人の熱意が人を呼ぶのである。

★「農は国の基なるぞ！」

明治天皇のお言葉である。

このままでは、担い手が非常に少なくなり草刈りや獣害対策も不十分だが、力と知恵を合わせてマメに頑張りますので、至急後方支援を充実して欲しい。

政府が、「国土保全」と言えば言うほど、農家は貧乏になって行くのが現実です。

年金の殆んどが、農業の為に消えて行くので、地域の特産品の販路開拓の企業やコンサルの紹介と勉強会等、行政から何とか手を差し伸べて欲しいものです？

ビジネスとして成り立つ農業を目指さなければ、担い手は元より、村が持ちません、観光農業や体験ツアー等企画して考えなくてはならないと思う。

そして、「何より農は、一つの仕事としてとらえるより、生き方と一致させることで、幸せに一番近い産業となりえると思う。」

★限界集落から「元快集楽の体験観光地」を目指す！

今こそ**「魚の目」**で時の流を読み、**「熱のある人」**を育て、ウェルカムする**「受け皿」**をしっかりと創ることが特に大切である。

この受け皿となるハード面とソフト作りが非常に大切で、**「持続的発展可能」**な１００年先のビジョンを創り１０００年続く地域を夢見ることであると思います。

※真の**「相互扶助」のライフスタイルを創る事に尽きる。**

つまり、各地域のアイデンティティー（らしさ）のある、自然や地形や民話・物語・人情・夢を活かして創る事が重要であると思う。

このソフトは、先ず**「地域をガイド出来る人を育てること」**にポイントがあると思います。

そこで大切なのは、行政側からの立ち上がり時の、資金支援が大切なポイントになる。

先ずは、ガイドが育ちコア（核）となり、さらにガイドがガイドを育て人的感化をして、多くの人を巻き込む仕組みを作る事である。

その**善循環型の地域**は、必ずや**「受け皿の拡充」**が急速に進み、リピート観光客も関係人口も移住者も増え、真の相互扶助の村が実現すると思います。

ガイドは、歴史・伝統・文化・民話・物語を学び、人々との出会いと感動に感謝しながら、地域の活性化の**お役に立てる喜び**を味わい**「語り部」**として、その**「笑顔」**と**「情」**が移住者の心に触れ、拡大を実現させるキーになると思います。

★活性化の源泉は、「人の熱意と希望と魅力作りにある。」

当市は今、幸いにして、高いアンテナと熱意と行動力のあるリーダーに恵まれました。

「時は熟したと思われます！」

企業でも９０％以上がリーダーで決まると言われている。

今こそ、パブリックイメージを充実させ、希望と熱意を持って共感を大切に**「安心で相互扶助の地域づくり」**を目指して行動する時である。

★社協の目指す相互扶助づくりとリンクする事が重要

「一度しかない人生を、地域の環境改善や活性化の為に動くのは、**人として価値高く、**誠に尊いい事であると確信します。」

★魅力的な地域作りをしないと「生き残れないし面白く楽しくないではないか。」

★地域独自通貨を作り「善循環型相互扶助」の地域作りを！

★難局は、乗り越えるためにあると言う積極一貫で。

★五月雨支援では、立ち上がりに効果が期待出来ない。

★縁は動より生じる。「積極的行動力と企画力」が第一

★農業は、「命の元」を作っている事に誇りと責任！

★地域の人口を増やす、もう一つのツールとして、地道だがコツコツ丁寧に、婚活とお見合い活動を重ねる事である。つまり、急がば回れである。

・お節介おじさんやおばさんの育成で、お見合いをコツコツと重ね成婚させる事である。

★婚活を数多く企画・実行して来て学んだことは、カップルは出来ても、**成婚**まで行かないケースが大変多いのは、カップルの悩みや課題に寄り添い、共感やカウンセリングが出来てないからである。

実際に寄り添いアドバイスし、お世話したカップルは、今のところすべてご成婚されている。

課題は、**「個人情報保護法」**が一つのカベ的要因である。

★市としての、婚活マスターの育成と支援が必要である。

ボランティアでは、マスターは育ちにくい。

これからは、カップルのお世話役としての**「メンタルカウンセラー的な質と育成にかかっている」「黙秘の徳」が解っている事が第一条件であるが。**

昔のように、お節介おばさんやおじさんが少なくなり、自由恋愛時代でみんなが、かまわない風潮でもあるから。

・近未来は、必ずやお見合いが増える。

★女性も男性も、人生で２～３回の結婚のチャンスがあったのに、背中を押してくれる人と躊躇して決断出来なかったのが多い。

★わが村では、婚活が縁ですでに、子供３人目が生まれ限界集落から準限界集落に戻りました。

★目指すは、若いカップルで農業したい人達である。

このような人達を育てるには、「儲かる素敵な農業」のモデルになり、ウェルカムし

なければならない。
・２１世紀は、環境の時代、河川清掃した後で打ち上げを。
・実際にCO_2を減らせる産業は農業だけだと思う。
・日本の農業にスケールメリットが叫ばれているが、私は逆にスモールメリットの農を考えている。
・傾斜が多くて、機械は高価で高速化するほど、倉庫に眠っている時間は長く、費用対効果が出にくいのである。
・社会は３０年位だが、家族経営なら１００年からの寿命があり、小さいからこそ、歴史の表舞台がどんなに荒波の時でも水面下でしたたかに生き抜いて来たと思う。
・これからも激動の時代、こんな時こそ小回りの利く農業経営が生き残れる手段の一つであると思う。
・時代は、人間の欲望が作る。どんなに技術が発達しても、空を飛びたいと思わなければ、飛行機はできなかっただろう。
　では、食に求められているものも、時代とともに変化している、先ず「量」から「味」になり、ある程度のレベルまで達すると、今度は「価値」で価値観は時代とともに変化するだろうが、どこに提案するかで農業のやり方は定まって来る。
・私の場合は、安心して農の良さを共感して貰える人に産物や加工品を提供することにこだわりたい。
　小さい農業だからこそ、こだわりを持つことは必要と思う。又、農業しなくても、働ける地元の企業や農家の紹介等がスムーズに出来る様にしたいものである。**（ナビゲーターの育成が必要）**
★空き家バンクの登録数に課題を感じる。
　先ず、なぜ登録が少ないのかを考えよう！
　それは、時間をかけて丁寧な説明で登録するメリットが伝わってないのか？理解や納得が出来てないように思える。
　家財道具やゴミの始末に、他人に見られたくないし、人手がかかるから人件費や費用の不安と心配が、登録を躊躇させているのではないだろうか。
　当地、世木地域振興会では、入居者のお手伝いとして、家財道具やゴミ出し作業をボランティアで、約１０名以上は必ず参加しています。　「ようこその心で！」
★空き家待ちの人が、大変多くあるのに勿体ない。
　地域のナビゲーターが、きめ細かく情報提供する仕組みを作らないと、せっかくの機会を逃してしまう。
　ナビゲーターに任せっきりは、ナビゲーターの気分で決まっているのではないか？
★若い世代の**婚活・お見合いで、人口を増やすのが原点。**
　若い世代が結婚し家庭を持ち地域に住むことは、地域の未来に大変大きな希望と可能性をもたらしてくれる。
★宿泊施設を作って欲しい！
　先日、２０名と３０名の方が別の日に、体験農業学習に来られましたが、宿泊施設が少なく結局、京都市内まで戻られました。
　自然豊かな現地で宿泊して頂ければ、もっと良かったのにと、つくづく思いました。
　日吉ダムとスプリングスひよしは、**地域のランドマークであるのに**、宿泊施設がないのは、来訪者のニーズやウォンツに応えられてないと思う。

★休耕田の再利用に条件付きでも支援が必要である。

私は、休耕田にコスモスの花を植えるのは、最後の手段であると思う。

一句詠うなら**「休耕田　コスモスの花は、死に化粧」**

休耕田でも給排水が出来るなら、観光農園として、安く貸し出して村民とのコミュニケーションの場となり関係人口が増えればいいし、未来に移住の可能性もある。

行政から、この休耕田が再利用出来るように工事費の特別支援があれば有難く思います。

さらに、クラインガルテンで関係人口を増やすための支援も企画して頂きたい。

★当地は、ビジョン委員会を立ち上げ、子供達の声が聞こえる村を目指し、**「中世木まるごとプレイパーク構想」**を発信している。

時代を担う子供達の為に、この素晴らしい環境や文化・精神伝統を伝えて行く義務が我々にあると思います。

「田舎こそ、自然と言う大いなる愛で安らぎと癒しの場だ」

「玉磨かざれば、光なし」足元に資源という宝がある。

「どんつきの村から世界を変える

**　　１００年先のビジョンを創り１０００年続く村をめざす！」**

★私達も本気で命をかけて頑張りますので、役人である行政の皆さんも、本気を出して一度しかない人生を輝かせて欲しい！

最後に、役所の農業委員会の役員でありながら、自分の田んぼの草刈りもしない、１メーター程も伸びてから草刈りの依頼をする。

村の役も逃げるし、元の自宅も空き家バンクに登録もしないでは、役人としての自覚が足りないのではないか？と村民が言い出しているのを見ると大変残念である。

今こそ官民一体で頑張らなくてはならない時だと言うのに・・・役人の自覚を持ち、いいお手本になって欲しい。

★モラルの学習会と出前の地域づくり学習会で受け皿向上。

★「却下照己」の心で、遠きをはかり環境改善と温故創新」

★「最悪に備えて、最善の努力をする」とは、日頃から人を大切にし、**「仲良くする努力を重ねる事である」**

以上

「地域づくりは、人づくり。人づくりは、自分づくり。自分づくりは、心づくり。」

「第２期南丹市人口ビジョン」（案）
「第２期南丹市地域創生戦略」（中間案）に対するご意見（4/4）

必須項目	住所または所在地	美山町
	氏名または団体名 （団体の場合は担当者	
	連絡先(電話番号)	

＜意見＞
※まず、以下ご配慮ください。
以下の意見に対する回答をホームページ等に掲載する場合、多くの市民に対し、こちらの質問の背景やその意図に理解が深まるよう、質問とあわせて「その理由」についても可能な限り同列に掲載していただきたいと思います。

①【南丹市人工ビジョンについて】
１）「人口の現状」に関して
● 各町ごとの内容でこの調査結果を整理して出して欲しい
（その理由）
「人口の現状」に関して、南丹市全域を押し並べて調べてありますが、南丹市を構成する四町はそれぞれ地域特性を含む状況が大きく違います。例えば、園部、八木と美山とでは、産業構造そのものも大きく異なるため、全体での分析とともに、各町ごとの分析も同時表記しないと問題の本質的な理解と分析を経たビジョン策定は難しいと考えます。

２）「将来人口の見通し」に関して
● 将来の見通しはむしろ悪い設定で想定した方がよい
（その理由）
人口想定に関して、将来設定の見通しがずいぶん甘くなっているように感じます。なぜならば提示された見通しと、実際に美山町の住人としてリアルに感じる減少度合いとが、かなり乖離しているように思うからです。
先般、国レベルで調査推計した出生率の減少予測でさえ、予想を遙かに超えたスピードで進行していることが大きな社会問題になっている中、見通しはむしろ悪いくらいで想定した方が、対策がより具体的、且つ迅速に行えると思います。
例えば、今問題になっている美山町での新幹線工事が仮に実行された場合など、外的要因による生活環境悪化が引き金となる人口流出加速の懸念など、その時々によって、社会状況が変化することも考慮に入れた予測データを出していただきたい。
加えて、各町ごとの将来見通しも必要だと思います。

（※各町でのデータを出し比較しながらの推論が必要であることの論拠）2019 年１月７日に朝日新聞に掲載された記事「ＡＩが予測する２万通りの日本の未来　分岐点はす

ぐそこ」に、7～8 年をタイムリミットとして、人口の地方分散型のシナリオが必要であるという予測が AI を使った研究から導き出されていることから、南丹市全域の今後を予測する場合、各町の単位、さらには町内の区の単位まで掘り下げてデータを把握する必要があると考えます。

②【地域創生戦略第二期中間案について】

１）第一期の戦略の評価に関して

● 第一期の戦略が本当に成果があがっていたのかを、実例とその根拠を示してほしい

● 第一期戦略の検証が足らない PDCA サイクルによる評価・検証の内容を詳細に公表してほしい

（その理由）

まず冒頭の、平成 27 年度から 31 年度までの 5 カ年で行われた第一期創生戦略に関しての総括で、概ね達成が図れたとありますが、その具体的な成果が良くわからない上、成果があったとある記述のすぐ後ろに、

これらの戦略を推したにもかかわらず、

「十分な雇用が生み出せなかった」

「転入もあったが転出に歯止めが利かなかった」

「婚姻、出産数は成果が得られず」

「総体的に人口減少に歯止めが利かなかった」

というような報告がなされています。

第一期の戦略に関して本当に成果があがっていたのか。また、どのような基準によって成果があがっていると判断したのか。実例とその根拠を示し、あらためて評価のし直しをすべきだと思います。

上記のことから、まず第一期戦略の結果をしっかり分析してはじめて次のフェーズにつなげられると思いますが、精査し、そもそも第一期戦略が正しかったのか、なにが足らなかったのかも含め、その検証が足らないように感じます。

本戦略（案）3 ページ５の戦略の評価・検証に記されている PDCA サイクルがどう活かされているかの具体的な情報の開示をお願いしたい。

３）四つの基本目標について

● 基本目標の早期実現を果たすための道筋が全体的に曖昧。具体的な事業の形とその内容がよく見えるようにしてほしい。

● この戦略案とよその行政が作った同様の内容など酷似している部分が多く、南丹市のために考えられた独自のアイデアなのかどうか疑問に感じる

● 現在、市民が実際に行っている地域振興の活動をしっかり調査し、事業効果への評価をし、市の戦略の推進に対し効果的かどうかの検証を行い、必要性が認められれば、

積極的な連携を強化してほしい

（理由）
基本目標１～４については、概ね理解出来、また共感もできますが、そこに想定される基本方針や主な事業および取り組みなどに関しては、まだまだ不十分であると考えます。
その一番の理由は、人口問題でも挙げたとおり、この方針を具現化する基本策が、園部、八木、日吉、美山の四町のそれぞれの地域特性を考慮した内容に見えず、全国的に展開される、似たような自治体戦略のテンプレート（※１）を当てはめているかの様に感じてしまうからです。

（※１参考資料）
「●●市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「●●市人口ビジョン」
（リンク削除）

南丹市は都会から田舎の原風景まで、多様な文化圏を持っている行政市ですが、個別の地域特性（地域の個性）を最大限活かすきめ細やかな戦略があってこそ、全体をビルドアップする可能性の芽もあるのですが、全体を平均的におしなべた戦略は、まさに文章だけの戦略になってしまう可能性も否めません。

例えばこれまで定住移住促進を進めてきたにもかかわらず、定住移住が進まない背景には、諸条件も関係するとはいえ、そもそもどういう人にどんな暮らしがして欲しいかというターゲットの絞り方によるプロモーションが漠然としすぎていることがあると感じます。
南丹市への移住定住が思いのほか進まない要因のひとつに、この町のどこで、どんな暮らしができるかという内容を、誰にどうプロモーションしていくかという、そもそもの方向性が、ぼやけているからかもしれないという認識も必要かもしれません。

私が在住する美山町のことを例に出せば、美山は観光が最大の産業となっていますが、近年、観光産業全体の縮小傾向が見受けられ、その縮小への動きが止まりません。
その理由のひとつに、観光のまさに動脈ともいえる公共交通機関が、南丹市によって効果的に運用されていない現実があります。
南丹市営バスの運行は先般一部改正され、かやぶきの里へのルートは充実したかに見えますが、それ以外の地域には、逆に不便になっているところもあります。
それにともない、美山ではかやぶきの里一極集中の観光が加速、その他の地域の多くの観光資源うまく活用されておらず、施設などの維持が難しくなっている現状があります。
一極集中では観光客の滞在時間も短く、それに伴い観光客単価にも限界があります。より客単価を上げて、観光産業を後押しするには、公共交通機関網の充実による、広域での新たなる観光資源開発が不可欠です。
戦略の中に、書かれている「観光ルートやアクセス体系の整備・充実」はまさにそれで、各地域の特性に合わせた、より具体的な策を講じることが大切であるということをしっ

かり認識し策定していくことが重要です。

それ以外にも、美山町にはすでに自然体験、文化体験、サイクルツーリズムをはじめとした先進的な取り組みが多く、それらはすでに市民によって大きな成果をあげているものが多くあります。特に、芦生自然学校などで取り組んでいる活動、自転車の聖地プロジェクトなどのサイクルツーリズムは、これまで１０年以上の間、継続拡張し発展している好例です。これら市民主体の活動は、全国的にみても珍しく、多くの行政、団体からも注目を浴びる活動となっており、美山町の環境、ひいては南丹市のブランド力、求心力に大きな実績を作っていると考えます。加えて、この活動をきっかけに多くの移住が実現し、また熱意を持った関係人口も多数発生しています。こうした新たな人の動きにより、地域や農地が守られている事実もあります。
そうした民間の成功事例をこの戦略にいち早く取り入れ上手く活用し、さらにはそのノウハウを市内全域に共有することができれば、この戦略の中間案にある、

（基本目標１）しごとをつくり、そこで働く人をふやす
（基本目標２）南丹市に新しい人の流れをつくる

など、これら基本目標が、実現可能になっていく大きな力になるかと思われます。

次に、
（基本目標３）結婚、妊娠、出産、子育ての希望を叶える
に関してですが、
例えばこの中に謳われている「子育てを後押しする環境作り」に関しては行政が主導してその環境を壊している印象がぬぐえません。
ひとつは小学校の統廃合や、地域医療の切り捨てです。
例えば、結婚から子育てまでをバックアップすることに関して言えば、世代の負担軽減という方法だけで対応するのではなかなか難しいと考えます。その町で結婚、出産し、子育てまでを考えるには、「この町で子どもを育てたい」というモチベーションをその世代の若者に如何に抱かせるかという戦略が必要になります。しかしながらそれは個々への経済的支援だけではありません。
そもそも、その町が子育てするのに魅力的かどうかを判断するには「教育」「医療」「安全」の要素が不可欠であり、その要素が整理されていない状態で、いたずらに「集客」しても効果が上がるように思えません。
町のビジョンを具体化する「見える動き」が必要であると思います。

現在、美山では町民が主体となって、美山町とデンマーク郊外の町との交流事業を始めています。特に子どもたちに特化した交換留学などの交流も独自に進め、多くの成果をあげています。ただ、学校を巻き込んだ動きになかなかならないのは、この動きが民間主体だからです。こうした活動を、行政もしっかり把握し、基本目標を実現するための有力な事例として認識し活用していただけると、活動の効果がより大きく見えてくると思います。
「子どもが地域に愛着をもてる教育や取り組みの推進」という項目に、確実に適合する

例だと考えます。

最後に、
（基本目標４）誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
ですが、
ここにあるように、
「活躍できる場をつくる」ためのインフラ整備、例えば光ファイバー網の基盤整備や充実なども必要ですが、その整備がそれぞれの町の特性に合わせた計画として実践していただきたいと思います。
あわせて市民リーダー養成に関しては、そもそも市民が自分たちの活動に自信を持ち継続、拡充していくことを支援することが大切で、そのために、例えば公的資金の投入などが必要というわけではなく、「市民が自分のステージを与えられる安心感」だと思います。

これらの戦略が、具体的且つ効果を発揮するためにも、この内容をより個別細分化し、現在の市民活動を拾い上げながら上手く活用することが、いち早く成果を上げる事につながると考えます。

③全体的な意見として
● 戦略の実行に際して PDCA の状況を市民に分かるように広報し、市民の意見が速やかに反映していける体制を具体的に提案してほしい

可能な限り、こうした戦略の実行状況を市民にわかりやすい形で公開し、細かく期間を切ってその都度、検討修正が行われることを期待します。
すでに第一期の内容に関して、まったく見えないところで進んでしまった感があります。　この戦略を策定するために、それ相応の税金を投入していると推察しますので、市民もしっかり認識、参画できるよう配慮していただきたい。

● 最後に、こうした戦略がまさに画に描いた餅にならないよう、行政の取り組む姿勢と、関わる行政マンの情熱に期待します。